

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立矢田西小学校
学校長名	亀川 育寛

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立矢田西小学校では、第6学年 48名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

昨年度は国語科・算数科とも、平均正答率は大阪市、全国平均より上回っていたが、今年度は国語科・算数科・理科ともに下回っている。また、無答率についても国語科・算数科・理科ともに大阪市平均よりも高くなっている。領域別の平均正答率では、国語科の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」については大阪市、全国平均より上回ることができた。また、「書くこと」については、昨年度より大阪市平均との差が3.7ポイント縮まっている。しかし、その他の領域に関しては大阪市、全国平均より下回っており、算数科・理科についてもすべての領域で同様の結果となった。

質問紙は全体的に大阪市、全国平均を上回る項目の方が多い。しかし、学校の授業以外の勉強や読書の時間は、大阪市、全国平均を下回る結果となった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国平均より12ポイント下回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」についてはよく理解できていた。また、漢字についてはよく書けており定着していると言える。全体的に無回答は少なかったが、文の内容を読み取り、自分の考えを書くことができていなかった。児童の正答数については全体的にバラつきがあった。

〔算数〕全国平均より19ポイント下回っており、その差はどの領域とも同程度であった。児童質問紙の「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対して肯定的な回答が全国平均より大きく上回っていることから、学習への意欲と成果に差異が見られる。児童の正答数は16問中10問以下が9割近くあり、全体的な底上げが必要である。

〔理科〕全国平均より13ポイント下回っており、その差はどの領域とも同程度であった。書く問題に対しての無答率が高くなっている。しかし、児童質問紙の「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」や「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」に対して肯定的な回答が全国平均をはるかに上回っている。この結果から、正答率は低い児童は理科に興味を持ち、その必要性を感じていることがわかる。

質問調査より

各項目の最も肯定的な回答が、「人が困っているときは、進んで助けていますか」(78.6%)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(92.9%)「友達関係に満足していますか」(76.2%)となっている。これは大阪市、全国平均より大きく上回っており、思いやりや人権を尊重する心情が育っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(85.7%)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」(52.4%)とこれらの項目も最も肯定的な回答が大阪市、全国平均より大きく上回っており、先生を信頼している児童の割合は高い。

「国語・算数・理科の勉強は好きですか」の質問に3教科ともに好きと回答する割合が大阪市、全国平均より高い。しかし、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、「全くしない」と回答する児童が38.1%もあり、全国平均より33ポイントも高い。このことから学習に興味・関心はあるが、家庭での学習時間を確保できていないことが課題の一つとして挙げられる。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、人格の形成が学校教育の大きな目標の一つであり、学力向上に特化した教育にならないようバランス感覚を大切にして取り組みを進めてきた。学力向上は1年でできるものではなく、6年間の長いスパンを意識して取り組んできた成果が、児童質問調査の結果にも表れている。今後もこれまで取り組んできた以下の5項目を継続していきたいと考える。

- 1 すべての子に確かな学力を身につけるために授業改善を行い、授業をとおして学力向上を図る。
- 2 学力の基礎となる挑む力・やりきる力を育てる。
- 3 互いに学び合い高め合う集団を育てる。
- 4 学力状況の分析を行い、課題を明らかにしてチームで学力向上に取り組む。
- 5 家庭での学習習慣が確立できるようにする。